

PRAEVIDENTIA DAILY (1月9日)

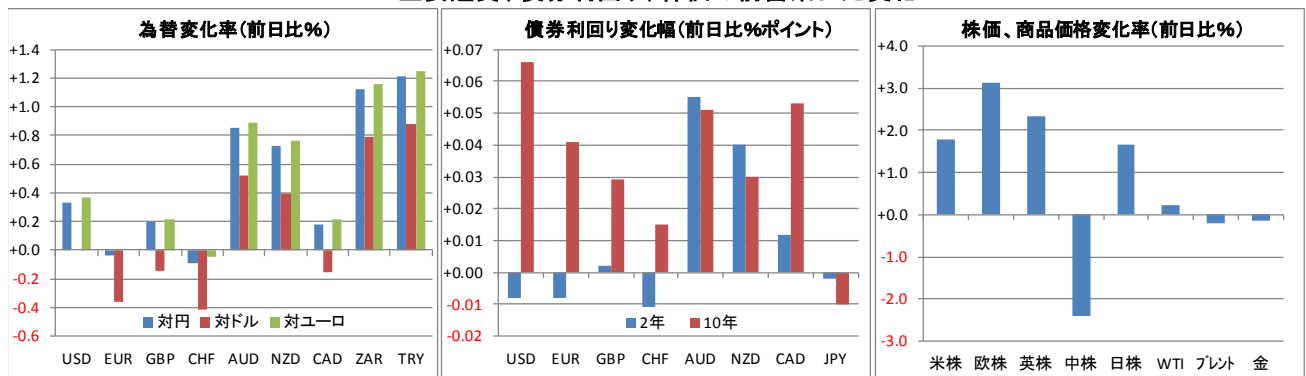
昨日までの世界：雇用統計を前にプチ・リスクオン

昨日は、原油価格が横ばい圏内に留まり、米国をはじめ株価が続伸したことから、ドル/円は119円前半から一時119.96円と120円丁度手前まで上昇した。但し米新規失業保険申請件数が29.4万件と前週を下回ったが市場予想を上回り、発表後に米2年債利回り低下と共にドルも小反落して引けている。

ユーロ/ドルも特段の新規材料はない中で、ECBの量的緩和導入期待やギリシャ政治情勢への懸念から下落が続き、欧州時間に一時1.1753ドルと、1999年1月4日のユーロ導入後の初値(1.1789ドル)を下回った。Draghi・ECB総裁は、低インフレ長期化に伴い一段のリスク対応が必要となる場合には、責務の範囲内で追加の非標準的措置を講じるコミットメントで理事会は一致している、と述べた。但しその後は対円でドル安に押し上げられ、1.18ドル近辺へ小反発して引けている。

他方、豪ドル、NZドルは対米ドルで底堅い展開が続いた。昨日発表の豪建設許可件数は前月比+7.6%と予想外的大幅プラスとなり、豪中長期債利回りも低水準から持ち直したことも下支え要因となっているようだ。豪ドル、NZドルのほか、南アランドやトルコリラなどの新興国通貨も株高と同時に上昇していることから、全体としてリスクオンの相場展開となっている。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：原油の軛から脱するか？

きょうの注目通貨：USD/JPY↑？

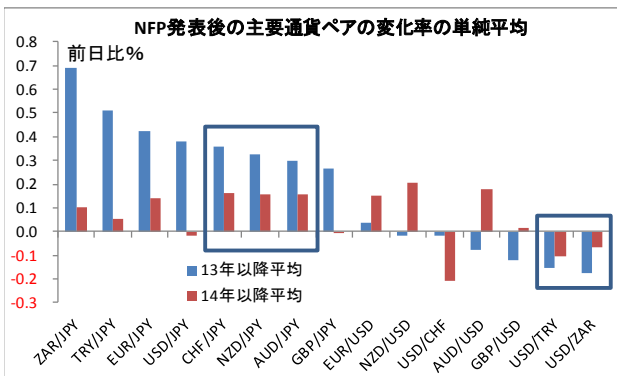
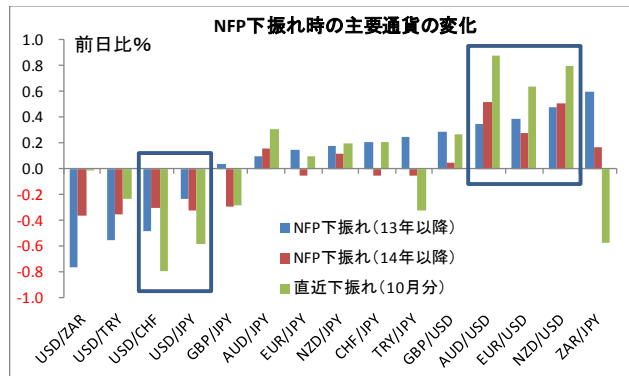
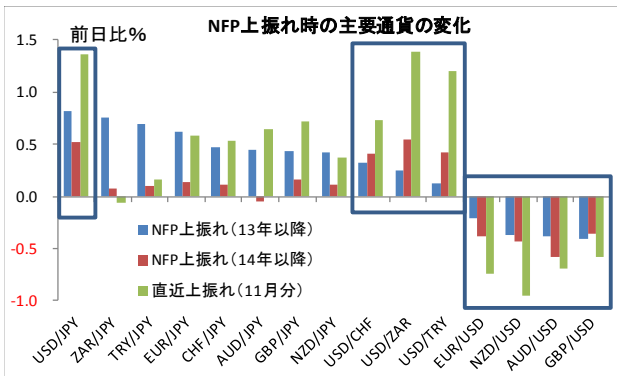
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 11月小売売上高・前月比	9:30	+0.4%	+0.2%	
Kocherlakota ミネアポリス連銀総裁発言	10:00			ハト派、投票権なし
中国 12月CPI前年比	11:00	+1.4%	+1.5%	14年政府目標は+3.5%
独 11月鉱工業生産・前月比	16:00	+0.2%	+0.4%	
英 11月鉱工業生産・前月比	18:30	-0.1%	+0.2%	
米 12月非農業部門雇用者数	22:30	+32.1万人	+24.0万人	
同失業率		5.8%	5.7%	
同平均賃金・前月比		+0.4%	+0.2%	
カナダ 12月新規雇用者数	22:30	-1.07万人	+1.5万人	
同失業率		6.6%	6.6%	
Evans シカゴ連銀総裁発言	22:40			ハト派、投票権あり
Lacker リッチモンド連銀総裁発言	3:20			タカ派、投票権あり
<10日>				
中国 12月新規人民元建て融資・元	10:00	8527億	8527億	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は米雇用統計が注目だ。市場予想を上回る 25 万人超の雇用増となれば、原油価格の押し上げには力不足かも知れないが、株価や米中長期債利回りの上昇に繋がりドル/円も 120 円台定着となりそうだ。非農業部門雇用者数の予想比上振れの場合、ドルが対円のみならず対主要通貨で全般的に上昇する傾向がある（下図を参照、但しカナダドルは今回カナダ雇用統計も同時発表なので、避けた方がいいかもしれない）。

他方、+20 万人を下回るような市場予想を明確に下回る結果となれば、米株価や米中長期債のみならず、原油価格にも下押し圧力となりそうで、ドル/円は 120 円の重さがより強く意識されることとなる。また最近の対欧州通貨でのドル高傾向と異なり、対米ドルで下げ渋っている豪ドルや NZ ドルは NFP 下振れの際に対米ドルで上昇が大きくなりそうだ。

因みに、NFP が上振れでも下振れでも同方向に動きやすい通貨ペアとしては、フラン/円、NZ ドル/円、豪ドル/円（いずれも上昇傾向）、およびドル/リラ、ドル/ランド（いずれも下落傾向）があり、雇用統計発表前に仕込むのであればこうした通貨ペアも妙味がありそうだ。NZ ドルや豪ドルは最近の下げ渋り傾向とも合致する。なお、13 年以降で NFP の上振れ/下振れにも拘らず大きく上昇傾向があったランド/円は、2014 年以降でみると上昇率が縮小しゼロに近く、妙味が薄くなっている。



来週の注目通貨：USD↑、EUR↓、GBP↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<12日>本邦休場				
豪 12 月 ANZ 求人広告・新聞	9 : 30	-5.4%		
同インターネット		+0.9%		
<13日>				
本邦 11 月経常収支・円・季節調整前	8 : 50	+8334 億		
中国 12 月輸出前年比	10 : 00	+4.7%	+6.8%	
同輸入前年比		-6.7%	-7.4%	
同貿易収支・ドル		+545.3 億	+498.5 億	
英 12 月 CPI 前年比	18 : 30	+1.0%		インフレ目標は 2%±1%
<14日>				
ユーロ圏 11 月鉱工業生産・前月比	19 : 00	+0.1%		
米 12 月小売売上高・総合前月比	22 : 30	+0.7%	+0.1%	
同コア小売売上高・前月比		+0.6%	+0.5%	
<15日>				
豪 12 月新規雇用者数	9 : 30	+4.27 万人		
同失業率		6.3%		
米 1 月 NY 連銀製造業景況指数	22 : 30	-3.58	+4.50	
米 12 月コア PPI 前年比	22 : 30	+1.8%	+2.0%	
米 1 月フィラデルフィア連銀製造業サーベイ	0 : 00	24.5	20.0	
<16日>				
米 12 月コア CPI 前年比	22 : 30	+1.7%	+1.7%	
米 12 月鉱工業生産・前月比	23 : 15	+1.3%	+0.1%	
米 1 月ミシガン大消費者信頼感・速報	0 : 00	93.8	94.1	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

来週は比較的重要材料が少ないが、米ドルに関しては足許やや減速気味の製造業景況感の方向性を見る上で地区連銀サーベイと、他国対比で比較的高めのコア CPI が下がらないか、そしてこれまで堅調な個人消費関連(小売売上高、消費者信頼感)の持続性が注目だ。原油安を受けたコア CPI の下振れリスク、米株価の調整色を受けた個人消費関連の下振れリスクがドルの上値抑制となりそうな一方、地区連銀サーベイの持ち直しがドル下支えとなりそう。メインシナリオとしては、多少コア CPI が下振れしたとしても Fed はあまり気にしない姿勢を示している中で、個人消費が下振れず、地区連銀サーベイが持ち直してドルが対円や対欧州通貨を中心にじり高、というものだ。今晚の雇用統計結果にもよるが、ドル/円は 120 円台で強含みがメインシナリオだ。

ユーロ圏では翌週 22 日の ECB 政策理事会(量的緩和導入如何)および 25 日のギリシャ総選挙を前に材料が少なく、ギリシャ選挙に関する世論調査結果を睨みながらユーロ安トレンド追随、というのがメインシナリオだ。英国では CPI が注目、インフレ目標レンジ下限である+1.0%に低下している CPI が更に低下するようだと、Carney 総裁が Osborne 財務相に対して書簡を提出せねばならず、利上げ期待が更に遠のきそうで、逆に多少上振れしてもポンドの大幅反発はまだ望めなそう。

豪ドル関連では豪州の雇用関連指標と中国輸出入統計が注目される。中でも豪州輸出景気と関連が深い中国輸入計数が更に悪化する見込みであることや、15 日発表の失業率の更なる上昇リスクが、豪ドルの重石となりそう。もっとも、豪雇用統計では失業率とは違って雇用者数は増加傾向で、また 12 日発表の ANZ 求人広告の改善は豪ドル下支え要因と言え、材料面では強弱交錯で方向感が出にくそう。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者(投資助言・代理業)関東財務局長(金商)第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641